



# 宮古島市 夢実現助成事業

## 報 告

「なみだしくや遊行のもてる  
砂の露」(芭蕉)  
： 氣比神宮



平成29年度 社会教育功労者

池田 俊男さん

～俳聖・松尾芭蕉ゆかりの地を訪ね、芭蕉真筆に触れる～

視察研修の目的は、俳聖・松尾芭蕉にゆかりのある地を訪ねることや芭蕉の真筆に触れることを通して、自己研鑽を深めるとともに子供たちの今後の俳句指導に活かすことであった。

芭蕉が弟子たちに言っているように「東海道の一筋も知らぬ人は風雅に覺束なし」(百聞は一見にしかず、に近い意)」をあらためて実感する。

今回の視察研修で芭蕉が行った地を直接訪ね、芭蕉の真筆(手紙、短冊など)に触れることができたことは文献では決して得られない貴重な体験となった。また、私の大学院での論文テーマである「松尾芭蕉の書」-その求めたもの-、をさらに深めることができたことは望外の喜びとなった。

この度の視察研修で得たことは、今後の俳句活動、俳句指導に活かしていきたい。



「奥の細道終焉の地」(岐阜県・大垣)

「行く春を近江の人と惜しみける」(芭蕉)  
： 義仲寺



「芭蕉ゆかりの氣比神宮」(福井県)



芭蕉墓所「義仲寺」(滋賀県)



平成29年度 社会教育功労者 友利 明豊さん

高大接続改革の一環である「主体性評価」に関するセミナーに参加した。新入試では主体性評価が必須となる事を受けて、大学側の進捗状況や取り組み課題を中心とした講義を受けることが出来た。佐賀大学の特色入試では生徒の主体性や伸びしろを評価するためのシステムがきちんと確立されており、今後の選抜試験において注目される入試だと実感した。手帳甲子園では学力向上や学習意欲向上、課題解決能力の育成に繋がる実践事例を学ぶことができた。本校のReview Timeの質の向上のための参考になった。今回の内容を学校職員への職員研修を通じて伝える必要があると感じた。

連載

## 文化財を巡る

No.31



## 「史跡盛加泉とティラフグ遺跡」



盛加泉は、平良字東仲宗根(字東川根)に所在するウリガーです。宮古島市内でも非常に規模の大きな洞泉で、水源地までは、一〇三段の石段が設けられています。このような洞泉は、昔の人々にとつて重要な水源地でありました。

郷土史家の稲村賢数は、一四世紀に宮古島に猛威をふるった与那覇ばらの一族の本拠地を、この盛加泉の一带にあつたと考えました。

与那覇ばら軍とは、一四世紀代に与那覇ばらという一族が、宮古島の各地の集落(高腰城跡や大浦多志城跡、大嶽城跡など)へ侵攻した一連の争乱をいいます。

その後、稲村はさらに調査を進め、盛加泉に隣接するティラフグ遺跡に、中国産の青磁や白磁が散布している状況を確認し、ティラフグ遺跡こそが与那覇ばらの本拠地であると記しています(宮古

島旧記並に史歌集解』。

ティラフグ遺跡は、東川根公民館の一带に位置する遺跡です。宮古島市教育委員会では、共同住宅の建設に伴う記録保存調査として、平成三〇年一月二日に、発掘調査を実施いたしました。

発掘調査では、中国産の一四世紀代の白磁や青磁、土器が出土しており、掘立柱建物跡もつぎ確認されています。建物の規格は長辺約六〇七m短辺約三〇四m十一、十二本の柱で構成されています。二つの建物跡は重なりあつていることから、建て替えを行っていた事が考えられます。

今回の発掘調査は、約七五mという非常に限られた範囲での発掘調査となりましたが、ティラフグ遺跡に実際にヒトが居住していたことが確認され、遺跡の年代は一四世紀代が想定されました。

現段階で、今回確認されたティラフグ遺跡と与那覇ばらとの関連性を直接結びつけることはできま

せんが、ティラフグ遺跡の人々にとつて盛加泉は、生活に欠かすことのできない重要な水源地であったことは間違いないといえます。現在は、住宅地となつている盛加泉の一带ではありますが、宮古島の歴史を営んできた貴重な文化財であるといえます。



(盛加川)



(ティラフグ遺跡)



募集中心!

## 平成31年度子ども博物館講座受講生

子ども博物館講座では、体験学習を通して宮古の歴史・文化・自然について知ることができます。

みんなで宮古のものしり博士になろう!!

対象:市内小学新4年生～新6年生

年間回数:6回(予定) ※年間通しての募集です。

募集人数:30名

募集期間:3月1日(金)から

※定員に達し次第募集を締め切ります。

申込み方法:電話または直接博物館で申込みをしてください。

0980-73-0567(市総合博物館)



平良第一小学校

岡山県津山市立  
南小学校

今年度は、宮古島市立平良第一小学校が岡山県津山市立南小学校と姉妹校縁組55周年を迎えました。

昭和38年6月に平良第一小学校校長砂川恵保先生（故人）が研修のため、琉球政府より岡山県に派遣され、2週間滞在したことをきっかけに友好を深めることを約束し、同年9月に姉妹校縁組が締結されました。

以後55年にわたり、親善訪問団や記念式典への参加、災害時の義援金贈呈など、さまざまな事業をとおして交流を深めてきました。



### 第11次親善訪問団

#### <夏の部交流>

平成30年8月20日～22日、南小学校からの第11次親善訪問団28名は、青い海が輝く真夏の宮古島へ来島しました。交流会では、平良第一小学校は「エイサー」を、南小学校は「わっしょい津山」を披露しお互いの文化を交流し合った。島内観光や海水浴、津山市では味わえない南国らしさを満喫していました。

#### <冬の部交流>

平成31年2月7日～10日、平良第一小学校からの第11次親善訪問団29名は、冬の津山市を訪問してきました。交流会では、宮古島の特色である「校歌遊戯」を披露し大喝采を受けました。津山市内観光では「朝霧の町」と呼ばれた美作の小京都・津山を巡り、鉄道博物館やスキー場での雪遊び、また、地域の方々やJ.C津山、姉妹校OBの皆さんとの食の地域交流会を満喫しました。



これからも姉妹校としての友好の絆を深め、心に残る未来に繋がる交流を続けて育事を誓い合いました。